

自然言語支援実験環境

—LINGUIST—

ICOT

第6研究室

佐 野 洋

開 発 指 針

系統的に記述される日本語文法

と

その構築を目指す研究活動

- 日本語文法の解釈枠組の構築
- 機械処理への適合性を示すため自然言語処理の支援環境を開発

後者の支援環境について言及

文法と文法を取りまく開発環境の特徴

文法枠組 日本語を体系的に記述することを目指す文法
「説明的記述に基づく文法—SFTB—」を解釈の枠組とする

記述枠組 (形式化) 単一化文法に基づき、単一化の機能を局所的に制限した枠組を用いて記述する。

記述枠組 (シンタクス) 限定節文法(DCG)のシンタクスによる
分析の手立て

- bottom-up手法により文(文字列)を分析し対応する構成素構造を出力
- top-down手法により文(構成素構造)を分析し対応する文字列を出力

本システムの位置付けと基本機能

- ロジックプログラミングの枠組において構築された自然言語処理の実験支援環境
- 解析のみならず生成の面からも、諸々の言語現象を分析し処理することが可能
- これまでに得られた日本語研究の成果を反映する
- さらに進めて日本語の調査や研究にも応用できる機能を持つ
- 実験支援環境としての機能を充実し、使用者とのインターアクションを重視する

本システムの動作環境と拡張性

- ICOTで開発されたPSI-Ⅱ（逐次型推論マシン）上で動作する
- 豊富な入出力デバイス，マウスを中心とするダイレクト操作を実現した
- 文法開発支援に加え，文脈処理への応用や適応を試みるための拡張性も考慮
- 有用な出力情報
 - 分析で得られる結果は，適用領域や応用分野に依存しない解析構造を設定した
 - 出力構造（構文—意味構造）は，意味処理に必要なデータを含む

まとめ — 1 —

機械適合性のある文法を提供するべく，

その記述の枠組を提案した。

さらに，機械を通じて処理が行えることの要請に答えるため，

文法開発支援環境を構築した。

まとめ - 2 -

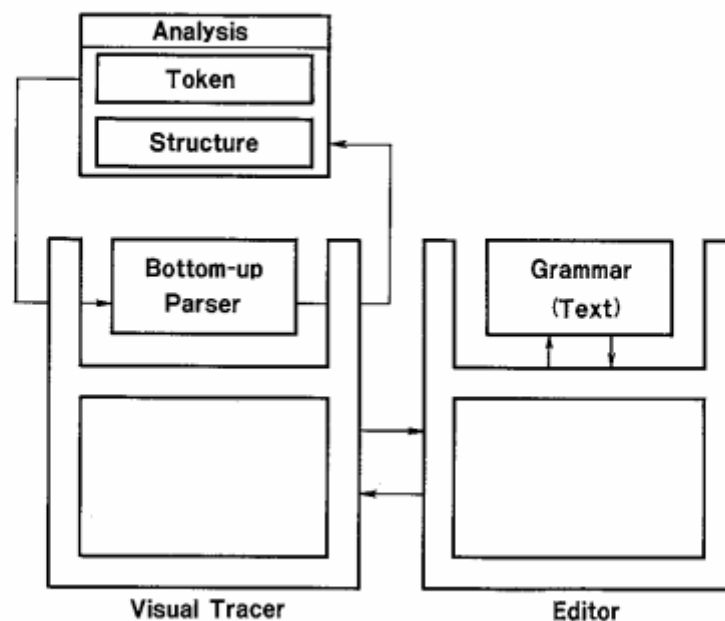
文法開発支援環境の概要

- 文法開発の効率化と言語現象の研究と実証の目的を合わせ持つ環境を整備した
- 文法開発支援環境は、すでにいくつかの研究成果をあげた実績を持つ

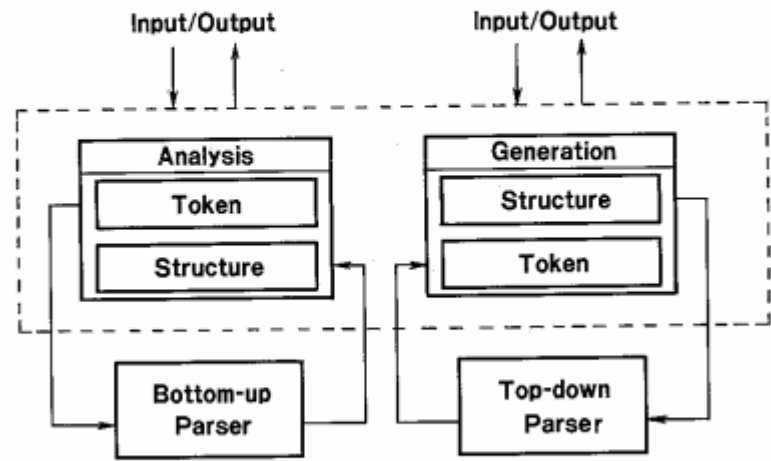
今後の方向

- 大規模辞書データベースとの融合あるいは統合化
- 言語知識開発支援環境としての発展

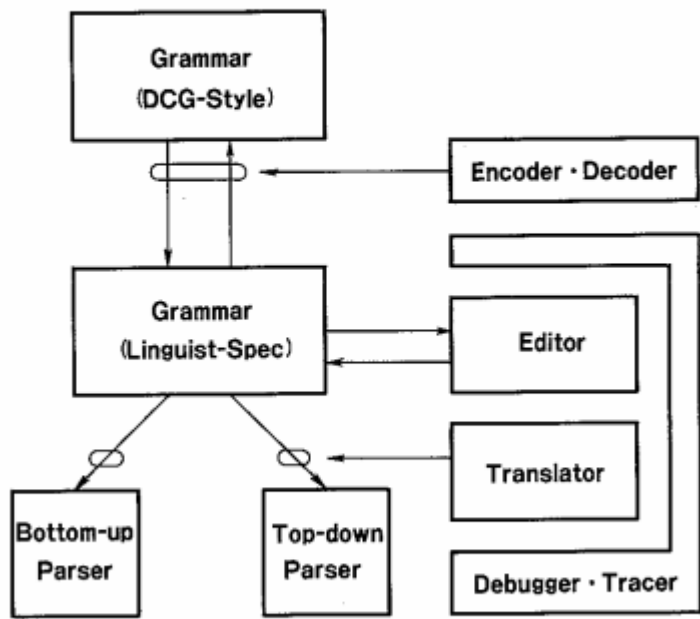
LINGUIST :	Contents Debugging environment	Figure
------------	--------------------------------------	--------



LINGUIST :	Contents Processor	Figure
------------	-----------------------	--------



LINGUIST :	Contents First stage	Figure
------------	-------------------------	--------



LINGUIST :	Contents Control structure	Figure
------------	-------------------------------	--------

